

【研究名】： ブドウ球菌属のダプトマイシンに対する感受性低下の要因探索

【研究目的】

ダプトマイシンは近年承認された新しい抗菌薬で、薬剤耐性(お薬の効果が弱くなったり効かなくなったりすること)について明らかでない点があります。臨床において、ダプトマイシンによる治療後にダプトマイシンに耐性を持ったブドウ球菌属が出現したとの報告があり、当院においても確認されています。そこで、当院におけるダプトマイシンの実施臨床データを用いてダプトマイシンが効きにくくなる原因が何かの耐性化に寄与する背景因子を探索します。

【研究意義】

ダプトマイシンによる感染症治療を行っている患者さんに対する、薬剤適正使用への貢献が期待できます。

【調査の対象となる患者さん】

2011年4月～2015年12月の間にブドウ球菌属が検出され、かつダプトマイシンの感受性試験が行われている患者

【方法】

調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調べます。

性別、年齢、身長、体重、抗MRSA薬の投与履歴、ブドウ球菌属の各種抗菌薬の感受性、腎機能、白血球数、CRP

【研究実施期間】

2016年3月～2017年2月

【患者さんの個人情報の管理について】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの個人情報が外部に漏れることはありません。

【研究実施体制】

研究機関： 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者： 教授 荒木 博陽

研究分担者：

准教授 田中 亮裕

副部長 守口 淑秀

副部長 田中 守

室長 渡邊 真一

薬剤師 木村 博史

愛媛大学医学部附属病院 感染制御部

准教授 田内 久道

副検査技師長 宮本 仁志

主任検査技師 村上 忍

松山大学 薬学部

教授 牧 純

准教授 玉井 栄治

助教 関谷 洋志

特任講師 高取 真吾

学生 川上 幸伸

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。

研究責任者： 准教授 田中 亮裕

電話番号： 089-960-5731

e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp

【本研究の結果】

本検討においてDAP低感受性菌の検出はTEIC低感受性菌検出の主要なリスク因子であることが明らかとなった。このことから、DAP低感受性表皮ブドウ球菌感染症患者にTEICを投与する場合には注意が必要であると考えられる。なお、本研究は第26回日本医療薬学会年会にて発表を行った。